

俳句

大津俳句会

どう見てもいよいよ褪せし水引草

井芹眞一郎

離れ住む子らを思ひて星月夜

秋山 恵

ぱつぱつと天の申し子返り花

岩崎由美子

勉学の窓を照して十三夜

岡崎 浩子

靴磨き気持ち整へ秋の旅

佐賀 久子

つつがなき日々の暮しや鰯雲

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

秋澄むや海に謝ること増える

矢嶋 道子

一筋の光手に受け裁ゆれる

梅木トキエ

初栗や茹で上がる頃子らの声

塚本 洋子

一匹は変化球で来る鬼やんま

榮田しのぶ

星座盤に広がる夢想賢治の忌

村田 健二

束の間の乱舞秋茜きらきらす

志賀 孝子

異国語のふえるコンビニ彼岸花

田上 公代

列島にまつり解禁風はずむ

木庭 杏子

虫時雨八雲語りの声響く

上杉 波

短歌

大津短歌会

朝ぼらけ灯り点れる灯台のしたを釣り舟
揺れつつ進む

鞍 岳志

半世紀我が人生の培つちかいはお喋り好きな書
のテイチャーよ

管野 静

リハビリで孫娘のような指導者に従いて
こそ明日は開くか

小平 善行

そのみぎわ護る術なく猫の餌になれる雀
の終のひと鳴き

坂本 杲子

お社の灯籠に刻む祖母の名をなぞりつつ
惚ぶ肌の温もり

豊岡ミツル

夜のはどろ一人目覚めむ晩秋の虫の音な
どを聞きて寝むらむ

吉永 恵子